

2024 年度  
事業計画書



学校法人 関東学院

# 目次

2024 年度事業計画の実行に向けて	1
第1章 各学校等の 2024 年度重点事業	
関東学院大学	2
関東学院中学校高等学校	5
関東学院六浦中学校・高等学校	8
関東学院小学校	10
関東学院六浦小学校	12
関東学院六浦こども園	14
関東学院のびのびのば園	16
法人	19
第2章 予算	23

## 2024年度事業計画の実行に向けて

理事長 規矩 大義

経済指標や統計数字が論じられる際に、「コロナ禍前と比較して」という言葉を聞く頻度がめっきり減ってまいりました。社会はコロナ禍前に戻ろうとするのではなく、新しい社会へと変容しようとしており、それにどこまで対応できるのか、試される時代に入ったといっても過言ではありません。

学院にとって一大事業であった大学・関内キャンパス整備事業も、若干の事業を残すものの、2023年4月のキャンパス開設、学生受入れ開始によって、一つの区切りをつけることが出来ました。2024年は再び、学院経営・学院運営の安定化に向け努めていく年となります。

しかしながら、教育機関を取り巻く環境はますます厳しくなっています。関東学院や地域を取り巻く環境もまた例外ではなく、より一層、不断の努力が求められるところです。

関東学院が持続的な発展を続けるためには、各校が理念を共有しつつも、それぞれが個性を際立たせ、特色ある教育と研究を推進し、地域・社会との繋がりを深めることが重要ですが、今は、それに加えて、その活動内容と成果が、社会から求められていることと合致することも必要です。

私たち関東学院は、私立学校としての矜持を保ち、長い歴史を通して建学の精神、教育理念を堅持してまいりました。今後も、子ども達、若者達の未来に責任をもてる教育・研究、社会連携・地域貢献を進めていかなければなりません。その実現に必要な施策や、求められる改革・改善については、躊躇なく、後戻りすることなく進めていく覚悟です。

今年も、大学・大学院、二つの中学校高等学校、二つの小学校、二つのこども園、そして法人（理事会）を含め、関東学院のそれぞれの機関が、学院グランドデザイン、未来ビジョン、中期計画（2020ー2024）の実現に向けて、具体的な施策に立脚した重点事業を中心とした「2024年度事業計画」を策定しました。これを内外に広く発信することで、ステークホルダーの方々はもとより、地域・社会の多くの方々に関東学院の活動をより詳しく知っていただき、教育機関としての社会的責任、説明責任を明確にするとともに、我々自身も日々これを再確認し、努力を重ねるための指針として、この事業計画書を発刊します。関東学院の活動をご理解いただき、今後とも、あたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 第1章 各学校等の2024年度重点事業

# 関東学院大学

学長 小山 巖也

### 2024年度事業計画についての展望

校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、新たに構築される価値観の中で、地域や社会と連携し、「知の拠点」としての役割を果たし、社会課題の解決と地域社会への貢献を推進していくことが重要だと考えています。

2023年4月、横浜・関内キャンパスが開設しました。横浜・関内キャンパスのある関内地区は、大企業の本社・研究開発拠点が集積している横浜駅周辺地区やみなとみらい地区と隣接しています。そのような立地特性を生かし、本学では世の中が直面している課題を扱う「社会連携教育」に重心を置き、大学と社会の関係を強化し、学生が現実の社会と密接に関わりながら学ぶ教育を展開していきます。

2014年に策定した将来構想「未来ビジョン」の一部について、プランの見直し、統廃合、再整理を行い、2019年に「中期計画」として新たに2020～2024年度の5年間にわたる計画を設定しました。「教育」「研究」「社会連携」「組織・運営」という4つの大きな柱を中心として、また、それらがつながることで大学の総合力が高まるように事業展開をします。2024年度においても、昨年度に引き続き、中期計画を意識しつつ、「学生の満足度」、「学生への還元」という観点で重点事業を次のとおり定め、着実に目標の達成を図ります。

### 2024年度重点事業

#### 1. 教育を通しての学生の満足度向上

本学の理念および教育研究上の目的に基づき、学生の知識、能力、技術を実質的に向上させるための教育を充実させ、その学習成果、学習効果を学生自身が自覚することにより、教育に対する満足度を高め、更なる学習意欲を向上させることを目指します。

学生自ら成長を把握し、学びに対する満足度と学修意欲を向上させることで、学位授与方針（DP）に定める能力を身に付け、その結果、成績不振の改善、休・退学の抑制、就職実績の向上、大学院進学者の増加につなげることを目指します。

- ① 学習成果の評価・活用
- ② 学部を超えて共に学ぶ教養科目・語学科目等の検討
- ③ 学位授与方針（DP）に基づく系統的・体系的な学修を担保する教育課程の編成
- ④ グローバルインスティテュート（IGC）の体制整備および運営
- ⑤ スポーツインスティテュートの体制整備および運営
- ⑥ キリスト教教育の充実と活性化
- ⑦ 退学者減少のための取組み（各学部）

## 2. 学生支援の充実と学内環境の整備を通しての学生の満足度向上

学修、学生生活、進路選択におけるサポートとサービス、奨学金制度等の拡充など、学生支援を更に充実させることで学生満足度の向上と休学・退学の抑制を目指します。また、正課教育だけでなく、国際交流、課外活動、ボランティア活動などを通じた学びと経験も、学生生活における満足度を高めることにつながることから、教育を通しての学生の満足度向上との相乗効果を図ります。

- ① 退学者減少のための取組みの支援（学生支援部）
- ② 学生満足度向上のための学生ニーズの把握および学生支援体制の強化
- ③ 就職未内定者支援プログラムの実施
- ④ 早期内定取得に向けた就業観の醸成を促すための取組み
- ⑤ 国際交流活動の活性化（留学プログラムの実施・海外協定校からの入学者の確保）
- ⑥ キャリア支援のための取組み（各学部）

## 3. 大学の研究力向上と研究支援体制の強化

教育・研究機関として、社会課題の解決および研究成果の還元をより強化していくため、組織的な取組みにより、大学の研究力向上を目指します。総合研究推進機構の機能を活かし、研究支援の強化、研究費の効果的活用によって、個人の研究活動を活発化させ、研究を通じた教育力を高め、社会における教育・研究機関としての位置づけを確かなものにします。また、学部、学問領域を超えた教員同士による新たなプロジェクトの立ち上げや、社会に向けた研究成果の発信および還元を積極的に行います。

- ① 教育・研究活動の見える化を通じたブランド醸成
- ② 競争的研究費等の外部資金獲得に向けた組織的研究支援

## 4. 社会連携・地域貢献事業を通しての教育・研究の発展

現代の多様化、複雑化する社会課題の解決に向け、教職員や学生が積極的に参加し、本学の知見を社会に活かす取組みを行っていくことで、地域社会における大学の認知度と評価を高めるとともに、本学の理念に基づいた社会連携・地域貢献活動を維持、発展させることを目指します。

また、生涯学習支援として、公開講座だけでなく、社会人を対象とした教育プログラム設置の検討を継続し、地域と社会に向けた学びの機会の提供も進めていきます。

- ① 補助金の積極的獲得
- ② 産官学連携の推進
- ③ 研究成果の社会還元への推進
- ④ 学部を超えて共に学ぶ教養科目・語学科目等の検討
- ⑤ 学位授与方針（DP）に基づく系統的・体系的な学修を担保する教育課程の編成

## 5. アドミッション・ポリシーに基づく入学者受入れのための戦略的入試・広報強化

本学の理念および3つのポリシーに基づき、教育・研究活動および学生サービスのさらなる推進・向上に努め、社会貢献・地域貢献ができる人材の輩出に向けて、本学での学修を強く希望する入学者を適切かつ安定的に受入れていくことを目指します。

きめ細かい対応を通して高校との信頼関係を構築するほか、本学の認知度の向上と建学の精神を基盤としたイメージ形成に向けた効果的な情報発信を行います。特に、教育力、研究力、学生の成長と満足度を前面に打ち出した広報を行うために、広報戦略だけでなく、発信すべきコンテンツと、その成果を増やすことを目指します。入試については入学者選抜方法・評価の多様化や、拠点展開による海外からの学生受入れなどの検討も継続して行います。

- ① 多様な志願者増のための戦略的広報強化
- ② 教育・研究活動の見える化を通じたブランド醸成
- ③ 国際交流活動の活性化（留学プログラムの実施・海外協定校からの入学者の確保）
- ④ 収容定員充足のための取組み（各研究科）

# 関東学院中学校高等学校

校長 森田 祐二

## 2024 年度事業計画についての展望

自己の力を他者と共に活用する能力を重視し、卒業生が実社会での価値を見出せるような教育環境を構築、2024 年の大学入試改革に向け、更なる進学準備教育を提供し、生徒が将来のキャリアに向けてより良い選択を行えるようサポートします。

また「探究学習」を学びの中心に据え、予測困難な社会に適応できる非認知能力を伸ばすためのプログラムを開発・拡充しつつ、ICT 環境の整備と活用を進め、オンライン・オフラインの学びを融合させ、生徒たちが柔軟かつ効果的に学べる環境を提供します。

そして教員の研修プログラムを拡充し、新たな教育手法やテクノロジーの導入を促進します。教育現場でのフィードバックを重視し、教員が柔軟で効果的な指導が行えるようなサポート体制も整備します。

加えて、今までできていなかった地域社会との協力を強化し、地域の課題解決に向けたプロジェクトに生徒が参加できるような機会を増やし、学校と地域が一体となり、共に成長できるような連携プログラムを推進します。

## 2024 年度重点事業

### 1. 学習指導・進路指導 (Olive STREAM) の充実

学習指導・進路指導の充実を目指し、Olive STREAM を基盤にした方針を推進します。この中で、主体性・自立性を強調し、生涯学び続ける生徒を育成します。そのためには、カリキュラム改革が必要であり、生徒・保護者の進路希望に合わせた教育課程を開発し、教員の指導力を強化します。また学際的な学びも促進し、プロジェクトベースの学習(PBL)、高大連携型の研究も進めたいと考えます。同時に、情報リテラシーと ICT スキル向上を図り、生徒の課題発見と情報処理能力を重点的に強化します。

学習環境を豊かにするためには、生徒が疑問や課題に自発的に取り組む場を提供することが不可欠です。実地研究やインターンシップを通じて、実践的な経験を積ませることで、言語学習においても資格取得だけでなく、実社会での言語活用を重視します。外部機関との連携を強化し、進路選択プログラムを多様化させ、生徒が将来進む可能性のある分野に理解を深めるようにします。

そして、保護者との連携を重視し、進路相談やキャリア教育に積極的に参加できる機会を提供します。進学先との連携を強化し、生徒の希望進路を具現化するためのサポート体制を整備します。これらの取り組みを通じて、生徒が主体的に学び、将来への進路を自ら切り拓く力を身につける学校環境を築きます。

### (1) Olive STREAM を視点とする学習指導・進路指導の高度化

- ① カリキュラム改革
- ② 探究的な学びの場の拡充
- ③ 進路選択プログラムの多様化

## 2. 学びの先を見据えたスクールモットーの具現化・現代化

学びの先を見据え、キリスト教的価値観に基づく教育プログラム、ステークホルダーとの強化された関係、キャリア教育の強化、対話と共感の文化の醸成、そして学校全体の DX 推進に焦点を当てます。生徒がスクールモットーに基づいた価値観を涵養し、社会での判断力を高めつつ、他者への奉仕活動を通じて利他の精神を具現化することです。同時に、卒業生、保護者、企業、地域などのステークホルダーと連携し、SDGs を推進することで、生徒が地域社会に貢献する機会を提供し成長を促進します。キャリア教育では、将来の進路に備え、個々の才能や興味に合わせたプログラムやコースを提供し、自己の強みを見出す手助けをします。対話と共感の文化を醸成することで、生徒は異なるバックグラウンドや信仰を尊重し、他者との理解と協力を深めることができます。最後に、学校全体の DX 推進により、生徒は情報を効果的に取得し、現代社会に必要なスキルを身につけ、自己変容を促進します。計画としては、これらの方針を具現化するために具体的なプログラムやイベントを計画し、ステークホルダーとの協力を強化し、オンライン学習やデジタルリソースを組み込んだ学びを提供します。

### (1) 他者、社会との関係深化

- ① キリスト教的価値観に基づく教育プログラム
- ② ステークホルダーとの関係強化
- ③ キャリア教育の強化

## 3. 募集活動の強化

ウェブサイトの魅力と情報充実化、ソーシャルメディアを活用した広報、オープンキャンパスやイベントの拡充、在校生・卒業生の成功事例の積極的な公開、地域連携の強化、特色プログラムの充実、進路サポートの提供を戦略的に強化します。これらの方針を実現するため、ウェブサイトのリバイスや SNS の効果的な運用、オープンキャンパスの内容精査、アンバサダープログラムの導入、地域行事への参加・施設貸与、特色プログラムの強化、進路サポートの展開を計画しています。これにより、学校の魅力を幅広く伝え、神奈川および東京からの受験生確保を図り、地域社会との連携を深めながら、学校の知名度を向上させ、生徒の進路実現をサポートします。

### (1) 効果的な募集活動の展開

- ① ウェブサイトの充実
- ② ソーシャルメディアの活用
- ③ オープンキャンパスやイベントの開催
- ④ 特色プログラム（教養講座）、エクステンションプログラムの強化
- ⑤ 希望進路実現に向けてのサポート



#### 4. キャンパス整備

学校は新しい体育施設の建設に向けて進捗しており、小学校との共有も含めて施設整備と構内環境の向上を計画しています。また、現行の図書館を有効に活用するための対策を講じ、中学校舎の不具合箇所を整備、美化を行います。これに加え、活用が滞っているビオトープも再整備し、小学校を含めた授業や部活動での利用を促進します。さらに、情報通信技術（ICT）環境の整備も進行中で、オンライン向けのネットワークを拡充し、教員向けのネットワーク機器を更新します。これらの取り組みを通じて、学校はより充実した施設と最新の ICT 環境を提供し、教育環境の向上を目指しています。

##### (1) 安全な施設・環境の整備

- ① キャンパスランドデザインの策定
- ② 既存施設の活用

# 関東学院六浦中学校・高等学校

校長 黒畑 勝男

## 2024 年度事業計画についての展望

2014 年から 10 年間の教育改革事業が成果を上げてきています。2018 年度に中学校は六浦中・高史上最低の入学人数となりましたが、徐々に回復し 2023 年度は 10 年ぶりに定員が充足しました。また、20 年ぶりで再開した 2019 年度からの高校入試には県外や海外駐在家庭からの入学生が増えてきています。特色が認知され一定の評価を得られるようになりました。2018 年度から随時携行する ICT 端末での学びの個別最適化の環境を活かした基礎的なアカデミックスキルの向上を強化してきましたが、2024 年度はこれをさらに進め、各教科での基礎力強化を図ります。特に数学での学力が高い層への特化した教育に着手します。本校の特色である英語教育では英語運用力の一層の引き上げを目指し、数値目標から見直します。英語教育の特色でもある GLE コースは、完成年度の 2023 年度に設置目標が概ね達成されました。これを弾みに英語をキーとする主体的で探究的・創造的な学習の深化と日本語力の増進を進めます。六浦小・中・高の教育連携を英語とプログラミングで強めます。金融教育も独自に BPO で特色化します。

## 2024 年度重点事業

### 1. 六浦学校群としての教育の特色を鮮明にする「小中高で連続するカリキュラム」の構築

2023 年度の事業計画では、『六浦ベルト』での 12 年間をアドバンテージとする情報教育カリキュラムの策定を目指す」としました。2024 年度は、六浦中・高では情報教育の課外教育として、文科省のカリキュラムとは別にプログラミング教育をスタートさせます。六浦小学校でのプログラミング教育への着手と六浦中・高での実践での連携を模索します。また、英語教育においても六浦小学校との連携を深め、さらに高い運用力の育成を目指します。高校 GLE コース一期生（23 年度卒業）が高度な英語教育による進路実現を示しました。GLE 教育へ繋がる高いポテンシャルを育てる英語教育を小中連携で検討し、中学段階で全生徒がさらに高度な運用力を習得する英語スキームを模索します。また、数学教育での特色化を小中の連携で進めます。

- ① 六浦中・高独自のプログラミング教育講座の新設
  - ・システマティックなカリキュラムで先進する台湾からの教育方法と指導人材の登用
  - ・学年横断での受講希望者での講座設置
- ② 英語教育での高い運用力の育成
  - ・中学 3 ヶ年間で育成する英語運用力レベルの引き上げ
  - ・GLE コースへ繋がる高いポテンシャルを育てる英語教育についての小、中・高での検討
- ③ 数学教育での学力の高い層への教育の特化
  - ・中学入学段階での数学の「吹きこぼれ」層への合理的な授業の展開方法でのシステム化
  - ・六浦中・高数学プロジェクトを意識する小から中・高への教育連携の検討

## 2. 金融教育講座の開設

学習指導要領では 2005 年から「金融教育」が推進されるようになりました。2022 年 4 月からは高校での金融教育の拡充が求められています。しかし現状は、小学校から高校まで「金融」という教科もカリキュラムもなく、断片的で散在した知識が家庭科や社会科などの授業で单元的に組み込まれている状況です。本校が開設する講座では、「金融」を狭くとらえて安直的に錬金術的な学びとするのではなく、社会の経済の仕組みを学ぶ講座とします。お金や金融、株式投資、租税などと個人の生活との関わりでのさまざまな事柄や知識を連関性の中で学んでいく一連の講座とします。長い人生を通して安定した豊かな生活に必要な具体的な知識を学ぶ講座として内容の充実を目指し、実社会の力や知恵と人材に協力を仰ぎ、学び方の斬新さ、楽しさを講座設置方法から魅力の浸透のさせ方を創意工夫し、人口縮小とグローバル化の時代に備える教育観の一環として、新規の教育事業を始めます。

- ① 課外型で設置する BPO による講座のシラバス設計
  - ・ SBI 証券グループの企業の協力によるオムニバスの講座での内容の設計
- ② 学齢横断型での受講希望者を対象とする講座の設置と浸透化への PR
  - ・ 集中講座もしくは通年でクール数回での開講
  - ・ 親子で参加できる講座開講などの検討

# 関東学院小学校

校長 岡崎 一実

## 2024 年度事業計画についての展望

関東学院小学校は 2022 年度にむかえた創立 70 周年を契機に学校のけしきが変わり、その成果を土台に 75 周年、そして 100 周年にむけたあゆみをすすめています。2024 年度も、「夢を育む学校」の理念を教職員と共有し、中期計画に移行統合される未来ビジョンと連動させた 3 つの柱からなる 5 つの重点事業を着実に実行します。第 1 の柱では「夢を育む学校」の教育課程を補強すべく「“夢たまご”プログラム」の策定と実行、教員研修の充実による学校の教育力の向上をめざします。「いつ来ても新しい、来るたびに好きになる」を施設設備面から担保するのが第 2 の柱で、備品や施設設備の更新により教育環境の整備充実にとりくみます。これらを含めたイノベーションを積極的にアピールすることにより、第 3 の柱である入学者確保と学則定員の充足をめざします。これらを着実に積みあげることにより、横浜市中心部にあるキリスト教に基づく男女共学の私立小学校という本校の立ち位置を明確にし、伝統をたいせつにしつつ変革に挑戦する学校として、地域にささえられた三春台の関東学院小学校というブランドの確立とさらなる発展をめざします。

## 2024 年度重点事業

### 1. 「夢を育む学校」の教育の創出

『夢を育む学校』の教育の創出（「未来ビジョン」ビジョンⅠ）をめざして 2020 年度からの本格実施を予定しながら大幅な変更を余儀なくされた新たな教育課程を補強すべく、2 つの重点事業にとりくみます。①では、テーマ募金 4 期のテーマと連動して 2019 年度から 3 年計画で着手しつつも中断した「夢たまご」プログラムについて、新たな年間プログラム策定の 2 年計画の 2 年目として年間計画を修正・改善・完成させるとともに、「バッハ・コレギウム・ジャパン」による「“夢たまご”コンサート」を再演するなど「本物の人・もの・コト」に出会う機会を学校のさまざまな場面に創出し、「プレゼンスの強化と三春台ブランドの構築」（「未来ビジョン」ビジョンⅢ）をめざします。②では、こちらも中断していた研究授業を中心とした校内研修の体制を充実発展させるとともに、本校のさまざまな教育課題に適切に対応できる力量を教職員個々が主体的に身につけ、ライフステージに応じたスキルアップができるよう個人研修を推進し、学校の教育力の向上をめざします。

- ① 「夢たまご」プログラムの策定と実施
- ② 次代を見すえた研修の推進

### 2. 豊かな学びと生活を保障する環境整備

「豊かな学びと生活を保障する環境整備」（「未来ビジョン」ビジョンⅡ）のために 2 つの重点事業を実施します。①では、先進的な教育活動に必要な備品の整備および長期にわたり使用してきた備品の更新により教育環境の整備充実を、2014 年度から継続している重点事業として

2024年度も実施します。具体的には、各教科・部・委員会などの校務分掌ごとに立てられた備品購入計画を、年に2回開催する予算会議において精査して配分、執行します。②では、施設設備の更新・改修を、施設建設プロジェクトと連動させて年次計画に沿って実施します。教室棟(1997年竣工)の段階的リニューアル9年目となる2024年度は、特別教室としてさいごになる1階理科室のリニューアルにとりくむとともに、安全性の観点から校庭の遊具(登り棒)の撤去工事を実施します。また、未来ビジョンのプロジェクトとして校名表示板とデジタルサイネージを設置します。新体育館については、中学校高等学校と連携して建設にむけてとりくみます。これらにより教育環境の整備充実をはかるとともに、「プレゼンスの強化と三春台ブランドの構築」(「未来ビジョン」ビジョンⅢ)をめざします。

- ① 教育環境の充実(備品整備)
- ② 教育環境の充実(施設設備の更新・校舎改修)

### 3. 志願者増をめざす新たな募集広報活動の構築

専願・第一希望による入学者を確保して学則定員を充足するため、来校者増をめざした募集広報活動にとりくみます。学校での入試広報行事については2024年度入試広報活動の反省をふまえて時期や内容を組み替え、あらたな年間計画を立案して実施します。「ほんの学校」「ICT機器を活用した教育」「英語教育」「『夢たまご』プログラム」「『選ぶ』をコンセプトに据えた教育」、また2024年4月から導入する「放課後プログラム」、さらには「毎年イノベーション」「関東学院小学校オリジナルの開発」など未来ビジョン各プロジェクトの成果を、2023年7月にリニューアルした公式サイトとLINE公式アカウント、2024年度入試からデザインを一新したパンフレット等の媒体を通じて積極的にとりあげ、「夢を育む学校」である関東学院小学校の魅力や独自性のアピールにとりくみます。

- ① コロナ時代に対応した広報体制の構築

# 関東学院六浦小学校

校長 黒畑 勝男

## 2024 年度事業計画についての展望

2019 年度から始めた「六浦小モデル 19-23 プラン」(以下「六浦小モデル」)は、新型コロナウイルス感染症の影響により 2021 年度まで試行期間とし、2022 年度に本格実践とし、2023 年度にプランの完成年度としました。2024 年度からは、これを本校の教育に浸透させてまいります。また 2020 年度から実施の新学習指導要領が掲げている「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」、「プログラミング」等を「六浦小モデル」を通して実施していきます。同時に、「六浦小モデル」を本校のキリスト教教育に基づいた様々な取り組み・企画を通して、個々の教員力の向上と教員間の連携強化を図っていきます。そのために、宗教主任的な働き(チャプレン)をキリスト教委員会の上に設置し、式典・礼拝・宗教行事等とおしたキリスト教教育の充実を図ります。

これらの取り組みに加えて、学院内の六浦こども園・のびのびのば園との連携強化、インターネット媒体の利用や幼児教室等との関係強化等の広報活動をさらに活発に行い、児童数増加を目指します。とくに ICT 活用においては、iPad 一人一台の教育環境の充実はもとより、学校運営においても積極的に活用していきます。

## 2024 年度重点事業

### 1. 「六浦小モデルプロジェクト」

2024 年度は iPad 一人一台の教育環境をさらに活用します。本校の教育に浸透させてゆく実践の年度となります。「六浦小モデル」は①「私の『ポケット』(探求)」、②「私の『パレット』(選択型学習)」、③「私の『ドア』(学習環境)」の3つのプロジェクトを柱としています。①は総合的な学習の時間を「個人総合」として実施し、児童一人一人の探求を深めます。さらに探求した成果の発表も自己表現の個性化(自己表現の場と方法の多様化)として進めます。②は学習の個性化(選択型授業・学習の複線化・少人数指導)を通して、児童に「わかった」という喜び、「できた」という自信を感じ取らせませす。③は iPad を世の中とつながる扉として活用し、児童の学習機会を拡大し、考察し学び取る力を養います。また、学校生活環境を整え、児童に「学習が楽しい、学校が大好き」という充実感を持たせませす。

この3つの柱を充実させるとともに、それに必要な人的・物的体制を整備して実践します。

- ① 私の「ポケット」(探求)の実践
- ② 私の「パレット」(選択型学習)の実践
- ③ 私の「ドア」(学習環境)の実践
- ④ 実践に向けての人的・物的体制の整備

## 2. 教員力の向上

教員の、授業力、クラス運営力、児童との関わり方、生活全般の指導力を高め、児童の学力向上、児童・保護者の満足度の向上を図ります。そのために、これまで重ねてきた校内研修・研究を継続するとともに、その成果を授業に反映させるために、研究研修部に情報委員会を吸収した「研究部」とし、授業改革等にICT化を連動させます。

校内の研修及び授業研究を「六浦小モデル」の「私のパレット」の取り組みを中心に据えて行います。児童への教育効果が高まるよう時間割編成を工夫して恒常的に行えるようにします。また、児童が世の中に出る十数年後の新しい時代に備えるための英語能力、道具としてのICT活用能力に加えて、デジタルシティズンシップに基づく情報能力（セキュリティ、プログラミング）に早期に触れさせる機会を与えるためにも教員研修を重ねます。

校外研修は、2023年度はオンライン研修に加えて集合研修も再開され、先進的な取り組み校への研修も実施できるようになりました。2024年度もこれまで以上に積極的に参加を促し教育力の向上に努めます。

### ① 教員研修（校内・校外）の充実

## 3. 在籍児童数の増加対策

学校内外に本校の取り組みや特色が「六浦小モデル」として浸透し、広く理解していただくための効果的な広報活動を引き続き展開し、積極的な情報発信をします。より実質的な効果をあげるために、「広報部」を中心とし、広報発信業務と説明会等の運営企画業務を効果的に実施します。

ホームページを適切な時期に更新して、最新の情報を分かりやすく、見やすく発信します。また、学院内の六浦こども園・のびのびのば園との交流を深めて、積極的に広報活動を展開し、両園からの入学者増加に努めます。さらに、幼児教室・幼稚園・保育所・認定こども園への訪問、説明会や出前授業の実施、本校に出向いてもらえる企画も考え、本校の特長を知ってもらい関心を高めるよう努めます。

昨今の家庭状況等のニーズに応え、放課後の児童の過ごし方を充実させるとともに、送迎用ロータリーの効率的活用により通学の安全安心を図り、積極的に広報します。

また、新1年生の募集に加え、転入・編入生受け入れについても積極的に広報を行います。転居による転入のほか、県内・都内の公立・私立からの転入に加え、小学校在学年齢での帰国子女受け入れにも取り組みます。帰国子女受け入れには関東学院六浦中学校・高等学校と連携して兄弟姉妹の同時受け入れができる制度を整えます。

- ① ホームページの適切な時期の更新による効果的・迅速な情報発信
- ② 六浦こども園・のびのびのば園との連携強化
- ③ 幼児教室等への広報活動の充実
- ④ 転入・編入受け入れの広報活動の充実
- ⑤ 帰国子女対象広報活動の充実、六浦中・高との帰国子女受け入れ連携強化

# 関東学院六浦こども園

園長 鈴木 直江

## 2024 年度事業計画についての展望

少人数で探索・探究ができる時間や大きな集団（学年やクラス）で活動する時間などを生活の中にバランスよく組み込み、個々の子どもの育ちに応じたユニークで豊かな経験ができるようしていきます。子どもが自ら課題を見つけ取り組む中で、学び（発見や探求など）や意欲につながる『遊び』を中心にしたカリキュラムを更に充実していきます。

子どもたちがキリスト教保育を土台に据えた生活の中で、安心して自分のありのままを表し持てる力を発揮して、人間関係を構築する事や居心地のよい環境を保育教諭と共に創り出す事ができるように努めます。学院内の連携も活発に行い、様々な人と出会い日常の中にあるアート活動を継続し自然教育・木育活動などを更に推進していきます。

また、子どもの発達に応じて豊かな体験ができる異年齢の関わりの柔軟な取り組みを試行し、園庭・室内環境づくりや整備についても、環境による教育・保育の重要性の視点から新たなチャレンジや継続を大切に行っていきます。

ホームページをリニューアルして本園の教育・保育や子どもたちの生活を発信し、広く地域や未就園児のいる家庭などに知っていただけるように努めます。そして、卒業した子どもたちや保護者の方たちが本園にいつでも足を運べるような機会を設けていきます。

## 2024 年度重点事業

### 1. 教育・保育の質の向上

学びや意欲につながる遊び（自ら創り出すもの）と豊かな探索や体験、集団の充実した活動また、子どもの発達に応じて豊かな経験のできる異年齢の柔軟な関わりや取り組みを試行していきます。

乳児・幼児クラス共に外部講師による園内研修会を定期的に行い、保育実践を持ち寄り発達理論に基づいて子ども理解が深まる話し合いや学びの機会を保障します。保育教諭の共通理解や連携を土台に保育が展開していけるように園内研修で学びを深めていきます。

また、外部の研修・研究会に積極的に参加できるような体制作りに努めます。

そして保育教諭が主体的に興味を持って研修や研究に取り組み、園、或いは個人で保育学会や幼児教育実践学会等で研究発表を行っていきます。

今年度、園のホームページをリニューアルし、園の情報が在園児や外部の方に見やすく、分かりやすいものにしていきます。また、昨年度から行なっている地域の子育て支援の取り組みや地域の方の園行事への参加などを充実し、園の教育・保育を体験し園を知っていただく機会を増やしていきます。

- ① 園内研修会や保育ミーティングの内容の充実
- ② 保育学会や幼児教育実践学会などでの研究発表の広がり
- ③ 異年齢の豊かな関わり、新しいユニークな教育・保育の試行と構築
- ④ 保護者や地域の方々に園の理解を広め深めるための新たな取り組み



## 2. 自然・木育を取り込んだ教育・保育の推進

新任の保育教諭に保育ナチュラリストや木育インストラクターの資格の取得を促し、有資格者にフォローアップ講座等への参加を促します。自然教育・保育に関する知識や技量を増やし日々の園生活にその経験を豊かに活かしていきます。保護者の方たちにも自然、木育を体験する機会を設け、その意味や重要性を感じていただきます。

また、2019年9月に認可された『ウッドスタート宣言園』を継続し、室内・外にある様々な生き物や植物などに触れる場をより充実させ、より豊かな自然、木育を実現していきます。

子どもたちが身近にある自然に興味・関心を抱き、それを探求していくことで培われる感性や探究心、創造力などの非認知能力を高めていきます。園に専門家を招いて自然の不思議さや面白さを体験し、子どもたちが身近な自然に関心を持ち大切に作る心を育てます。

- ① 室内・外の自然環境の整備と充実
- ② 保育ナチュラリスト・木育インストラクター講座の受講、自然研修の充実

## 3. 主体性や意欲、創造性を育む園庭、室内環境の充実

今ある園庭環境をより、子どもたちの主体性や創造性が発揮できる環境に進化させるために子どもたちが遊びや活動に取り組む姿から必要な遊具・場を検討し、お父さんの会と一緒に新たな環境を造っていきます。

そして子どもの興味関心や意欲が引き出され夢中になって取り組み、試行錯誤ができるような園庭に変化させます。今年度は劣化してきた遊具（櫓や木工小屋など）を取り壊し、新たに必要な遊具を建て、園庭全体のレイアウトを見直していきます。先駆的な環境づくり実践園の見学や研修などに積極的に参加していきます。

また、お父さんの会の活動が保護者と保育教諭が子どもの育ちや環境を共に考え合う大切な機会と捉え、年間を通してワークショップや講演会などを企画し実施していきます。

- ① 園庭・室内環境の充実や整備
- ② 先駆的な実践園の研修

# 関東学院のびのびのば園

園長 仲程 剛

## 2024 年度事業計画についての展望

本園の目指す「夢と希望と愛に満ちたこども園」の具現化に向けて、これまでも取り組んできた「キリストの愛に基づいた保育」「遊びの中から子どもの主体性を伸ばす保育」をさらに深化・向上させると共に、時代や社会、また地域や保護者のニーズに応える子ども園を創造していくことを推進します。

具体的には、キリスト教保育の理念の浸透、保育の質の向上のための取り組み、子育て支援と地域連携の充実・発展、そしてこれらの取り組みを組織的に行えるための園内体制の整備に取り組みます。

また、園の取り組みや実績を保護者や地域・社会に効果的に発信することで、保護者や地域・社会からの信頼を高め、のびのびのば園としてのブランドを確立します。そしてそのブランドを地域からの保育資源提供に結び付けることで、保育の質の深化・向上につなげるという、好循環の仕組みを確立していきます。

## 2024 年度重点事業

### 1. 保育理念の実質化に向けたカリキュラムの充実と職員集団のスキルアップによる保育の質の向上

キリスト教に基づいた保育を行う園の職員として、日々の保育や業務、また子どもや保護者、同僚との関わりの中で、具体的な行動としてキリストの愛を実践することを一番大切にします。

また「主体的とは何か」ということを常に問い続け、「遊びを中心とした活動の中から子どもの主体性を引き出す保育」を具体化するための取り組みを推進します。そのために、子どもの姿を客観的に捉えることによって一人ひとりの子どもに寄り添った保育を行うと同時に、日々の保育を常に検証・改善します。特に、「主体性」と「社会的スキル」をバランスよく育む保育を、園の課題として模索します。さらには、保育者自身も主体性をもって行動し、チームとしての保育力が向上するようにします。

#### (1) 保育理念の実質化に向けたカリキュラムの充実による保育の質の向上

- ① キリストの教えに基づいた保育の実質化
- ② 「主体性を引き出す保育」の実質化に向けての取り組み
- ③ 子ども一人ひとりを大切にしたい保育の推進

#### (2) 個々の職員のスキルアップとチーム力による保育の質の向上

- ① 園内研修や他園見学、体験研修等による個々の職員のスキルアップ
- ② チームの力を活用した保育の質の向上

### 2. 保育環境の整備・充実と効果的な活用による保育の質の向上

老朽化した施設・設備の補修・整備等、現状の保育環境を、安心安全の視点と使いやすさの

視点から再点検を行い、危険個所を解消する整備や使いやすさを向上する整備を行います。

また、「子どもの遊びを保障し、主体性を引き出す保育」という視点から、保育環境の課題を洗い出し、目の前の子どもの姿に合わせて工夫・改善して活用することで、保育の質を向上させます。特に、年少児の増加に対応した環境設定を工夫します。さらに、「しつらえる」という意識で、保育の中での整理整頓を徹底することを、保育者および園児で取り組みます。

現在利用している園内 ICT 環境を、園児の所在や安全の管理、また研修や情報共有のためにより効果的に活用します。園のホームページをさらに充実させ、本園の理念や保育目標・保育方針・保育内容、また現在の園の姿等をできるだけ多くの方に知ってもらい、園児の確保につなげていきます。

さらには、園舎改築を含む、中長期的な視点での「本園の理念を実現する保育のための施設・設備のあり方」についての検討を始めていきます。

(1) 保育環境の整備・充実

- ① 施設の老朽化への対応
- ② 安心・安全で使いやすい保育環境の整備・充実
- ③ 園内 ICT 機器の活用とホームページの充実

(2) 保育環境の効果的な活用による保育の質の向上

- ① 園庭やホール、にじの部屋等の共用スペースを効果的に活用した保育の質の向上

### 3. 子育て支援の充実・発展とそれを核にした地域その他との連携の充実

未就園児クラスの活動をさらに充実させ、保護者がお互いに支援し合う関係を構築していくことの援助をします。さらに、地域の子育て支援活動と協働して、地域の子育て世代全般への支援を行います。

「居場所づくり（のびのびの場）」の取り組みを継続し、無印良品等の企業や外部団体、また地域と連携することで、活動をより充実させます。そして、子どもたちが地域で安心して過ごせる場所として本園が認知されるようにします。その中で、この2年間で培ってきた「無印良品」との連携だけでなく、他の企業や行政、また地域の人材や団体（保育園・幼稚園等も含む）も巻き込んだ地域活性化及び子育て支援の枠組みを構築していきます。

さらに、地域の中に「子育てカフェ（仮称）」を設置するために必要な要件を洗い出し、設置の可能性を探ることを継続します。

(1) 子育て支援事業の充実・発展

- ① 未就園児クラスを柱にした子育て支援の充実
- ② 地域等の資源や人材を活用した子育て支援の充実

(2) 地域等との連携の充実

- ① 無印良品等の企業や外部組織との連携の充実
- ② 「おやじい～の会」や地域との連携の充実

#### 4. 安定した園の運営に向けての取り組み

職員一人ひとりが主体的に園の運営に関わることのできる職員集団の育成を目指して、個々の職員の資質・能力を向上させると同時に、組織の在り方を改善し、個々の職員の意識の改革に取り組みます。その中で、次期リーダーや園の運営を支える役割を担える人材を育成します。

具体的には、職員の勤務体制（シフト）の在り方を見直して検討することや、効率的な業務遂行のための園内組織図を整備することを始めます。

まずは、本園の「子育て支援活動」や「地域連携」「ICT管理（ホームページ管理含む）」「シフト調整」等の業務を、経験の浅い職員中心に多くの職員が体験し、それぞれの役割の組織化につなげていきます。さらに、新たな役割の設置を目指して、職員の中に多様性を尊重した保育を目指す意識の醸成を図ります。

- ① 園運営を視野に入れた人材育成
- ② 職員体制の見直しと組織力強化に向けての検討と試行

# 法人

理事長 規矩 大義

## 2024 年度事業計画についての展望

学院の一大事業であった大学・関内キャンパス事業も、2023 年 4 月のキャンパス開設で一つの区切りをつけることができ、2024 年度は再び、学院経営・学院運営の安定化に努める年となります。しかしながら、社会環境や教育機関を取り巻く状況は年々変化しており、関東学院や地域を取り巻く環境もまた、日々変化していることから、より一層、不断の努力が求められるところです。

関東学院が持続的な発展を続けるためには、各校が理念を共有しつつも、それぞれが個性を際立たせ、特色ある教育と研究を推進し、地域・社会との繋がりを深めることが重要ですが、それに加え、今後ますます、そうした活動が社会が求めるものと乖離していないかを検証する必要性が高まってきます。

学院の方向性を定め、かつ、学校経営、学校運営を支援・支持していくのが理事会の役割であり、2025 年から始まる新たな中期計画の策定とその実現に向け、社会の変化に対応すると共に、地に足をつけながらも、柔軟性と機動性を有した法人運営に努めてゆきます。

こうした各校を含めた経営、運営の具体に関し、主体的に取り組むのが法人事務局をはじめとする事務組織であり、今期の事業計画では、事務組織、事務機能の強化と、それを支える職員 of 長期的な育成、能力向上に向けた取り組みを目標に掲げています。

理事長、担当常務理事をはじめ、総務、法務、企画、財務、施設の各々が、学院経営の基盤となる恒常的な目標に加え、学院の将来を見据え、中期計画に則った目標を掲げ、重点事業としました。

## 2024 年度重点事業

### 1. 組織の機能強化と適正化

学院各校および各校の経営幹部との情報共有に努め、現在直面している経営課題の早期解決に向けて取り組みます。特に、進行中の大型プロジェクトについては、その円滑な推進のために、各会議体において、より柔軟で迅速な意思決定がなされるよう努力します。

また、学院経営、学校経営、そして学校運営において、社会環境の変化に対応し、中心的役割を果たす事務組織として、より一層の機能強化を図ります。組織再編や諸制度の見直しを行うほか、管理職の資質向上を図り、主体的に経営・運営に関わる職員の系統的な育成を目指します。そして、業務がより高度化、複雑化、専門化するなかでも、更なる生産性向上の実現に向け、就業環境の整備、教職員の人事制度、給与制度、福利厚生についての検討を継続して行います。

#### ① 組織の機能強化と適正化

- ・学校(教育研究活動も含む)経営に精通した職員の育成
- ・管理職の資質向上(部門をマネジメントする力、部下を育成する力を中心に)
- ・事務プロセスの見直しと業務の効率化
- ・事務処理におけるプライオリティの明確化、適正化

- ・社会からの要請に対応するための諸制度の見直し

## 2. コンプライアンス意識の醸成

学院ならびに学院各校の教育、研究、管理・運営が、法令違反や不正なく正しく行われるためには各教職員のコンプライアンス意識の向上が不可欠であり、前提となる現行法制についての理解を深めることが求められます。コンプライアンス意識の一層の向上を図るため、教職員を対象として法令遵守に関する研修を企画、立案し、実施を目指します。

また、私学法改正に伴って、関東学院が引き続き円滑に運営されるように寄附行為変更の準備を進め、関連規程を整備します。

なお、法務部は設置されて間もない部門であることから、法務関係の有資格者の配置、法務部嘱託弁護士の活用など、徐々に事務体制の整備を図っていきます。

### ① コンプライアンス意識の醸成

- ・教職員のコンプライアンス意識の醸成を図る
- ・寄附行為の変更、関連規程の整備
- ・法務部の拡充

## 3. 各校の運営支援及び学院の将来を見据えたプロジェクトの企画・提案

学院各校が個性を際立たせ、将来にわたって発展していくことを目指して、学長・校長・園長のリーダーシップのもとで提案される施策や事業計画を適正に評価し、その実行支援を行います。また、既に進行している学院全体のプロジェクトの推進並びに将来計画に繋がるプロジェクト立案のための企画・調査を行います。

### ① 各校の運営支援及び学院の将来を見据えたプロジェクトの企画・提案

- ・学院の経営方針に沿った、各校の事業計画の適正な評価とその実行支援
- ・各校の中期計画実現に対する政策的支援
- ・各校の広報及び情報の公表に対する支援
- ・学院の将来を見据えたプロジェクトの企画と推進
- ・次期中期計画（2025-2029）の基本方針の策定

## 4. 学びを支える情報基盤の整備

教育・研究の質向上と事務処理の効率化を目指し、学院各校の情報基盤設備について、年次計画を策定し、利用状況や規模に応じて最適化を進めます。また、学院全体の情報政策（情報管理、情報セキュリティ）を立案し、これに関する啓蒙活動も行います。

### ① 学びを支える情報基盤の整備

- ・学院全体の情報基盤整備に関わるロードマップの策定、実施
- ・各学校の情報基盤の設備に関わる支援
- ・学院全体の情報セキュリティ施策の検討

## 5. 学院ならびに学院各校の支援者の拡充

法人ならびに学院各校の教育方針や教育活動と成果、研究活動、社会連携教育活動、地域貢献活動に係り、行政や経済界、産業界、地域社会からの理解と共感を得て、寄付・募金だけに留まらず関東学院へ対する支援者の拡充を目指します。

更に現・元教職員、在校生、卒業生、関連企業・団体等からも様々な形で支援を募り、その実績を上げていきます。

- ① 学院ならびに学院各校の支援者の拡充
  - ・学院各校の支援者の拡充
  - ・学院支援者との関係構築
  - ・募金に代表される学院ならびに学院各校への支援受け入れ拡充と制度の再構築
  - ・次期（第6期）テーマ募金趣意書の策定

## 6. 持続的かつ安定的な財政基盤の確立

学院各校の未来ビジョン及び中期計画に基づく教育・研究改革等のプロジェクトの実施、並びに施設設備整備計画策定のため、今後の財政見通しを示します。資金運用においては、リスク管理を行いつつも、安定的な運用実績と成果が得られるよう努力します。

また、多額の資金を必要とする施設設備整備事業の検討にあたっては、資金計画を策定し、財源の視点から実現可能性の検証を行い、検証結果報告及び実現のための助言を行います。

- ① 持続的かつ安定的な財政基盤の確立
  - ・中期財政収支予測（2025年度から2029年度までの5年間の事業活動収支及び貸借対照表の推移）及び中長期財政収支見通しの作成
  - ・施設設備整備事業検討のための資金計画の策定

## 7. 学院の施設・設備の環境整備

学生・生徒・児童・園児・教職員等が安全で安心かつ健全な教育・研究環境、業務環境を得るための施設・設備の整備を目指します。

一方で、限られた財源のもと、既存施設の適切な管理や防災機能強化、安全対策・老朽化対策を通して、できる限り長く、安全に施設が使用できるよう努めます。

さらに、既存施設の再生化と有効利用に考慮しつつも、管理経費、減価償却費の低減を目標に、大学・金沢八景キャンパス（室の木）及び金沢文庫キャンパスの減築工事を完了させ、各施設の利用目的の明確化と利用箇所の効率・集約化を計画し、関内校地の整備計画、大学・金沢八景キャンパスの改修計画を策定します。

なお、これらの一部の事業にあっては、実施設計図書及び設計内訳書を作成して透明性や公正性が高い入札の試行に取り組みます。また、関連する他の事業との整合性、施設建設以外の動向を踏まえて進めていきます。

- ① 学院各校における施設・設備の整備、災害対策を含む防災機能強化・安全対策・老朽化対策
  - ・関内校地の整備計画を進める

- ・大学金沢八景キャンパス（室の木）及び金沢文庫キャンパス減築工事を行う
- ・大学金沢八景キャンパスの改修計画を進める
- ・特定天井耐震化に伴う計画を進める
- ・耐用年数に達する照明・空調設備の更新を行う



## 2024 年度事業活動収支予算の概要

2024 年度事業活動収支予算は、事業活動収入計 218 億 7,692 万円、事業活動支出計 238 億 4,431 万円、基本金組入額 3 億 4,005 万円となり、基本金組入前当年度収支差額は 19 億 6,739 万円の支出超過予算となります。

### 事業活動収入の部

事業活動収入の部では、前年度予算と比較し、手数料、寄付金、雑収入、その他の特別収入は減少していますが、学生生徒等納付金や経常費等補助金、付随事業収入、受取利息・配当金が増加したため、事業活動収入計は、2 億 7,409 万円の増加となっています。学生生徒等納付金の増加は、大学の 2023 年度の学費値上げ、両中高及び両小学校の授業料値上げ、六浦中高の予算人員増によるものであり、付随事業収入の増加は、大学の国際学生寮の入寮者増加を見込んだ補助活動収入の増加によるものです。

### 事業活動支出の部

事業活動支出の部では、前年度予算と比較し、人件費、教育研究経費、資産処分差額が増加していますが、管理経費、借入金等利息、その他の特別支出が減少し、事業活動支出計は、55 億 1,249 万円の大幅減となっています。大学の E5 号館・ルツ館及び金沢文庫キャンパスの教室棟・厚生棟、健康管理センター・小講堂の減築が予定されているため、その建物等取壊費 13 億 2,960 万円が予算計上されていることが教育研究経費の大幅増加の要因となっています。なお、前年度は小田原キャンパスの土地・建物・構築物等の現物寄付 74 億 4,191 万円を予算計上していたため、それが大きく影響しています。

### 基本金組入額

基本金組入額は、前年度予算比 5,057 万円増の 3 億 4,005 万円を計上しました。基本金組入の対象となる施設建設プロジェクト事業（固定資産の取得）は、学院各校の施設改修、更新工事になります。2024 年度は大学の建物の減築に伴う第 1 号基本金の取崩しがあるため、基本金組入額は抑えられています。

### 今後の課題

2024 年度予算は、教育活動収支の赤字額が大きいとため、教育活動外収支の黒字額を合わせても、経常収支差額の赤字額は大幅に増加しました。また、大学の建物減築による固定資産処分差額を 5 億 313 万円計上しているため、特別収支差額も赤字となり、基本金組入前当年度収支差額は 19 億 6,739 万円の赤字となりました。

施設建設プロジェクト事業による一時的な赤字とはいえ、学院の永続的な持続と発展を図るためには財務基盤の安定化が不可欠であるため、学生・生徒・児童・園児数の安定的な確保とともに、経常経費の執行にあたっては、しっかりとした事業計画に基づき、その効果を見極めながら収支均衡が図れるよう取り組むことが、引き続き求められます。

# 事業活動収支予算書

令和6年 4月 1日から  
令和7年 3月31日まで

(単位:円)

教育活動収入の部	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
	学生生徒等納付金	16,155,217,000	15,751,885,000	403,332,000
手数料	406,601,000	409,697,000	△ 3,096,000	
寄付金	190,951,000	200,918,000	△ 9,967,000	
経常費等補助金	3,166,140,000	3,158,696,000	7,444,000	
付随事業収入	785,074,000	751,815,000	33,259,000	
雑 収 入	508,573,000	694,028,000	△ 185,455,000	
<b>教育活動収入計</b>	<b>21,212,556,000</b>	<b>20,967,039,000</b>	<b>245,517,000</b>	
教育活動支出	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
	人 件 費	11,142,441,000	11,116,001,000	26,440,000
教 員 人 件 費	7,631,851,000	7,487,674,000	144,177,000	
職 員 人 件 費	2,614,267,000	2,614,147,000	120,000	
役 員 報 酬	61,712,000	61,398,000	314,000	
退 職 給 与 引 当 金 繰 入 額	785,452,000	827,007,000	△ 41,555,000	
退 職 金	49,159,000	125,775,000	△ 76,616,000	
教育研究経費	10,042,374,000	8,557,601,000	1,484,773,000	
管 理 経 費	1,880,323,000	1,958,336,000	△ 78,013,000	
徴収不能額等	0	0	0	
<b>教育活動支出計</b>	<b>23,065,138,000</b>	<b>21,631,938,000</b>	<b>1,433,200,000</b>	
<b>教育活動収支差額</b>	<b>△ 1,852,582,000</b>	<b>△ 664,899,000</b>	<b>△ 1,187,683,000</b>	

教育活動外収入の部	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
	受取利息・配当金	591,000,000	554,000,000	37,000,000
第3号基本金引当特定資産運用収入	29,000,000	29,000,000	0	
その他の受取利息・配当金	233,000,000	226,800,000	6,200,000	
その他の特定資産運用収入	329,000,000	298,200,000	30,800,000	
その他の教育活動外収入	0	0	0	
<b>教育活動外収入計</b>	<b>591,000,000</b>	<b>554,000,000</b>	<b>37,000,000</b>	
教育活動外支出の部	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
	借入金等利息	98,773,000	99,840,000	△ 1,067,000
支 払 利 息	98,773,000	99,840,000	△ 1,067,000	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
<b>教育活動外支出計</b>	<b>98,773,000</b>	<b>99,840,000</b>	<b>△ 1,067,000</b>	
<b>教育活動外収支差額</b>	<b>492,227,000</b>	<b>454,160,000</b>	<b>38,067,000</b>	
<b>経常収支差額</b>	<b>△ 1,360,355,000</b>	<b>△ 210,739,000</b>	<b>△ 1,149,616,000</b>	

特別収支	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
	資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	73,366,000	81,787,000	△ 8,421,000	
施設設備寄付金	4,661,000	2,420,000	2,241,000	
現 物 寄 付 金	20,022,000	29,884,000	△ 9,862,000	
施設設備補助金	48,683,000	49,483,000	△ 800,000	
<b>特別収入計</b>	<b>73,366,000</b>	<b>81,787,000</b>	<b>△ 8,421,000</b>	
事業活動支出の部	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
	資産処分差額	505,133,000	5,373,000	499,760,000
固定資産処分差額	505,133,000	5,373,000	499,760,000	
その他の特別支出	0	7,441,918,000	△ 7,441,918,000	
<b>特別支出計</b>	<b>505,133,000</b>	<b>7,447,291,000</b>	<b>△ 6,942,158,000</b>	
<b>特別収支差額</b>	<b>△ 431,767,000</b>	<b>△ 7,365,504,000</b>	<b>6,933,737,000</b>	
[予備費]	175,273,000	177,745,000	△ 2,472,000	
基本金組入前当年度収支差額	△ 1,967,395,000	△ 7,753,988,000	5,786,593,000	
基本金組入額合計	△ 340,058,000	△ 289,480,000	△ 50,578,000	
当年度収支差額	△ 2,307,453,000	△ 8,043,468,000	5,736,015,000	
前年度繰越収支差額	△ 21,641,027,110	△ 29,640,379,102	7,999,351,992	
基本金取崩額	1,897,731,000	14,249,396,000	△ 12,351,665,000	
翌年度繰越収支差額	△ 22,050,749,110	△ 23,434,451,102	1,383,701,992	
(参考)				
事業活動収入計	21,876,922,000	21,602,826,000	274,096,000	
事業活動支出計	23,844,317,000	29,356,814,000	△ 5,512,497,000	



## 2024 年度 事業計画書

### 学校法人 関東学院

---

住 所	〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1
電 話	045 (786) 7036
メー ル	kikakukg@kanto-gakuin.ac.jp
URL	<a href="http://www.kanto-gakuin.ac.jp/">http://www.kanto-gakuin.ac.jp/</a>
編 集	法人事務局 企画部・財務部 2024 年 3 月 27 日 発行

---